



# 着続ける使い切る衣素材としての 伝統的木綿織物に関する研究



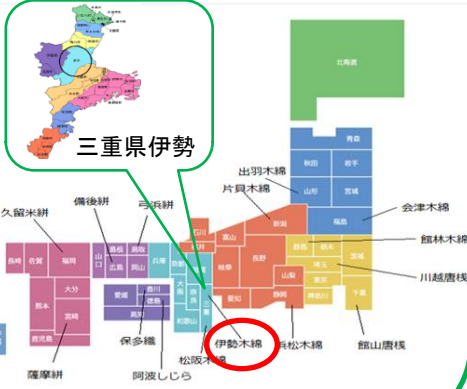
池田 彩華

## 1. はじめに

木綿の単衣長着は、江戸時代以降、一般庶民の日常着として長く用いられ、各地の気候風土に根差した独特の木綿織物が発展していた。現在、地球温暖化抑制のために、天然由来の素材の活用が増々求められていることから、着続ける衣服、衣服の再利用の検討は家政学を学んで来た者として重要なことだと考えられる。

そこで、SOUSOUも用いている伊勢木綿を対象にして、洗濯に対する耐久性とくに寸法変化と、繰り返し洗濯を経た着古した伊勢木綿を用いて、小物へと再生することを検討することとした。

## 2. 日本各地に点在する木綿織物



## 3. 伊勢木綿とは

- ① 素材の特徴: 撚りの甘い糸を使用  
洗濯によって糸が綿(わた)に戻ろうとする  
→生地が柔らかくなる → 洗うほどに風合いUP! ?
- ② 柄の特徴: 紺や色縞、格子縞、白格子

表1 現在に伝わる伊勢木綿の柄と特徴

引用文献: <http://isemomen.com/index.html>

	伊勢縞	江戸時代末期、庶民の普段着の柄
	白格子	福田金蔵が晒しに色糸を入れたものを考案
	カルサン縞	フランス語の「カルソン(ズボン)」から由来。戦前まで各地のもんぺの柄。織田信長の時代に伝来。信長も穿いていたかも?
	白雲織	藍染めの紺無地
	千草織	木綿を織っている農家が残った糸で自家消費用に織ったもの
	萌黄織	明治時代、藍とカリヤス(黄色の天然色素)の併用染色が始まり。織萌黄はタテヨコ糸の配色バランスで色を再現

## 4. 伊勢木綿の洗濯後の寸法変化

JIS L 1096 寸法変化 G法に準じて行う

試料: 伊勢木綿

試験片: 30cm × 30cm 1条件につき3枚

洗剤: 中性洗剤(P社製)、弱アルカリ性洗剤(K社製)

洗濯機種: パルセーター型洗濯機 T社製 AW-90SVL

温度: 常温

洗濯時間: 5分、10分

洗濯回数: 1回、5回、10回

寸法変化率  $\Delta L(\%) = ((L_2 - L_1) / L_1) \times 100$

L<sub>2</sub>: 洗濯後の長さ, L<sub>1</sub>: 洗濯前の長さ

寸法変化率 ⇒ マイナス・・・縮み  
プラス・・・伸び

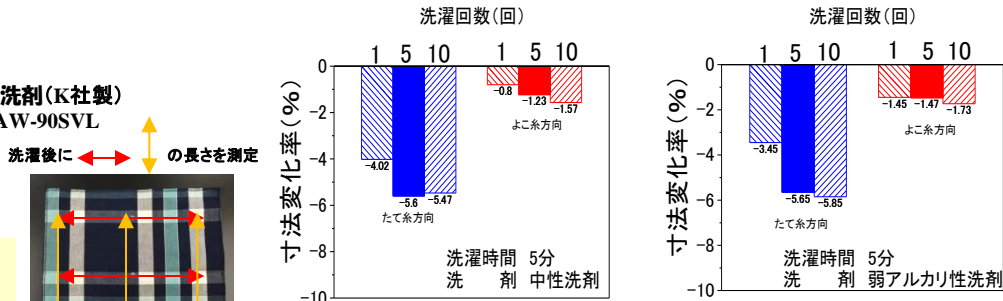


図2. 洗濯後の寸法変化率

たて糸方向が縮みやすい。洗濯を5回程度繰り返すと、寸法変化は生じにくい。

## 5. 伊勢木綿の堅ろう性

汗	酸性汗		
	変退色	汚染	
		第一	第二
	4-5	4	4-5
摩擦	アルカリ性汗		
	変退色	汚染	
		第一	第二
	4-5	4-5	4-5
乾燥(汚染)			
4-5			
湿潤(汚染)			
2-3			

湿潤状態で摩擦すると汚染しやすい汗に対しては堅ろう

## 6. 伊勢木綿を着続ける、使い切るための展開

「着物地で作るかんたん小物」、「手ぬぐいスタイルブック かわいくて楽しい85の使い方」、「和布の柄を楽しむ手ぬぐいメイクこもの」を参照して作成



図4. 各部の名称

洗濯によってたて糸方向が縮むが、柔らかな風合いは保たれるので、子供用品への展開、大人にもキャミソールや足袋などで楽しみながら使い続けることができる。